



酪農家の出身ではないのですが、オープンキャンパスで牛がいることを知り、そこから牛に興味を持ちました。最初は慣れない作業ばかりで大変でした。酪農は忍耐力が必要だと思います。しかし、そのおかげで積極性が身についたと感じています。今では日々牛の可愛さに癒されています。(左 2年生、堀籠 亜実さん)

高校に入って初めて牛の世話を体験しました。初めは匂いがきつと思いました。今は慣れました。哺乳作業が私の好きな時間で、必死にミルクを飲もうとする子牛は可愛くてたまりません。皆で牛の世話をするので、楽しく作業できる雰囲気やチームワークがとても大事ななと思っています。(右 1年生、中西 はなさん)



実家が酪農家で、将来継ぐつもりで乳牛管理を学んでいます。ここでは頭数が少ないのに人手も多いので、やはり手をかけて丁寧に管理できていると感じています。実家に帰ったときにそのまま通用するとは思いませんが、牛を綺麗に健康に飼うことの重要性はとても理解できました。とても貴重な経験ができていると思います。(2年生、石川 航さん)

まずやってみる

酪農畜産の経験がない生徒からすると、牛の世話はわからないことだらけ。先生にやり方を聞く前に「まずはチャレンジしてみる」という意識を持ち、生徒達は自主的に挑戦する。



生徒自ら調べる

酪農を取り巻くさまざまな課題などに対して、生徒達自身で調べ、まとめて発表するという取り組みを行なっている。牛だけでなく、酪農の情勢を理解しながら管理を行なう。



概要

北海道士幌高等学校 課題研究 1・2年生
生徒数7名
総牛頭数 18頭(経産牛9頭、育成牛9頭)
繋ぎ牛舎、独房、パイプラインミルク
活動内容:「牛を第一に考える」ことを念頭に、より実践的な牛の管理を行なう授業。専攻学科・学年問わず「牛の管理に挑戦したい」生徒が集まる。衛生的で良質な生乳生産を目的としている。
担当教諭: 川口 雅史先生



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！

NO.17

北海道士幌高等学校



アニマルウェルフェアへの意識

生徒の共通のテーマは、アニマルウェルフェア。認証を取得している士幌高校では「やるべき管理をしていれば、自然と認証されるもの」という意識で日々牛の管理を行なう。

高品質な生乳から

小規模ゆえに、量より質を求める生乳生産を意識している。その表れとして、体細胞数は平均2万個/mL以下ということもしばしば。生乳加工施設もあり、そこで製造される乳製品はふるさと納税の返礼品にもなっている。



今まで道内さまざまな地域の公立高校で酪農を学ぶ生徒達と関わってきました。そのなかで私が一貫して大切にしているのは「牛ファースト」ということです。牛のために何が出来るかを考える問いかけや関わりを意識しています。とくに本校では、健康な牛から質の良い乳を搾るためにさまざまな取り組みをしています。(川口 雅史先生)



祖父と父が酪農を経営しており、その影響で酪農を学んでいます。実家の農場と違い頭数が少ないので牛が綺麗です。牛を洗って綺麗にする経験はなかったです。綺麗になったときはとてもスッキリします！ほかに規模が違うからこそその管理方法の違いなど学ばべき点が多いです。アニマルウェルフェアの実際も知ることができて良かったです。(2年生、北出 峻さん)

学生牛部は今!